

第46回全難言協全国大会近畿大会を終えて

近畿大会実行委員長 三島 公德（大阪市立常盤小学校長）

近畿大会事務局長 足立 貢（大阪市立北中道小学校）

1. 大会概要

大会主題を「個々の子どもたちの課題に合う指導や支援のあり方を考える～聴覚・言語障がい教育の専門性を高めるために～」とし、主に難聴学級や通級指導教室担当者が専門的な知識を深め、スキルアップがはかれるように、平成29年7月27日と28日の2日間にわたり大阪市北区にある天満研修センターにて、近畿6府県の共催で全国大会近畿大会を開催しました。

1日目の記念講演では、指導者や指導対象とする子どもたちのスピーチやコミュニケーション能力のレベルアップをめざすため、ボイストレーニングの方法や他者との円滑なコミュニケーションができるように心がけていることなど関西テレビの関 純子アナウンサーより伺うことにしました。

また、「聴覚・言語障がい教育にかかわる担当者の専門性について」というテーマで、パネルディスカッションを行い、コーディネーターとして竹田 契一先生（大阪教育大学名誉教授、大阪医科大学LDセンター顧問）を招き、大学関係者、言語聴覚士、通級指導教室担当者からそれぞれ見解を聞き、難聴学級や通級指導教室の現状や今後の課題など知ることができる機会を用意しました。

2日目は、「構音障がい、吃音、聴覚障がい、言語発達、発達障がい」に分け、講習会と分科会を行い、それぞれの分野で専門的に研究や指導をされている先生方の話を伺った後、実際に現場で指導をしている担当者のレポートを聞き、具体的な取り組みを知ることができるようにしました。

2. 大会の様子

本大会には544名（参加申込者469名、講師・パネラー・レポーター21名、来賓等17名、スタッフ37名）の参加があり、講演会では、関アナウンサーの体験を聞くだけでなく、ボイストレーニングを実際にし、参加者同士でインタビューをし合うなどの活動にも取り組んでいただきました。パネルディスカッションでは、教育現場だけでなく医療現場で取り組まれていることを聞き、対象児だけでなく指導者自身がコミュニケーション能力や協調性を高める必要があることを学びました。

講習会と分科会は、参加者がそれぞれのニーズに合わせて選択し参加していただきました。午前中は講習会として研究成果の報告や指導方法や内容についての解説を聞き、午後からは難聴学級や通級指導教室担当者から具体的な取り組みについてのレポートを聞くことで、参加していただいた方が専門的な知識を深めることにつながったのではないかと考えています。

3. おわりに

文部科学省の庄司先生をはじめ、大阪府、大阪市、堺市の各委員会から教育長や教育次長にお越しいただき祝辞をいただきました。さらには全日本聾教育研究会からも祝辞をいただきました。本当にありがとうございました。ご支援ご協力をいただきました各団体、関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。大会実行委員や運営スタッフは当日の運営について何度も検討してきましたが、行き届かないところもあったと思います。何卒、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。